

工学部 機械工学科 2025年度卒業
兵庫県 高等学校・工業（機械） 合格

浮邊 孝幸さん

この度、兵庫県教員採用試験の高等学校・工業（機械）で現役合格しました。

合格できたのは教職の先生方、教職教育センターの方々をはじめ、同じ目標に向かって切磋琢磨し合った学部の友人、家族など関わってくださった全ての人のおかげだと思っております。関わってくださった全ての方々に、この場を借りて心より感謝申し上げます。

私が教員採用試験を受けるまでに行ったことなどについて述べていきたいと思います。私が教員採用試験に向けて本格的に取り組み始めたのは、大学2年生の1月頃でした。まずは一次試験突破を目標に、教職教養や一般教養の基礎学習を中心に取り組み、1日30分を毎日続け学習を継続することを大切にしてきました。また、今までの講義で学んだ内容と採用試験の過去問を照らし合わせながら、自分に不足している部分を把握し、特に専門分野では対策の本を買い重点的に復習しました。また、兵庫県では一次試験に集団討論があり、事前に3つのテーマが提示されます。その3つのテーマについて教育委員会のホームページや兵庫の教育プランをしっかりと確認し、紙に意見を書き出し何を聞かれても意見を言える状態で挑みました。この際、学部の友人や教員を目指している友人と意見交換を行い自分以外の考えを取り入れることをしました。

二次試験は模擬授業をした後3人の面接官による個人面接になります。模擬授業の対策として、板書、声量、言葉遣い、視線、話すスピードこの5つを意識して練習を繰り返しました。

私の採用試験対策において、ターニングポイントとなったのは、大学3年次と4年次に参加した山田先生主催の「野迫川村勉強合宿」です。山深い静寂の中、同じ志を持つ仲間と24時間教育について語り合う時間は、何物にも代えがたい経験でした。仲間と互いに模擬面接を評価し合う中で、自分では気づけなかったことを指摘してもらいました。共に苦しみ、共に笑い、切磋琢磨する中で、「教員は一人で戦うものではない」という確信を実感しました。仲間の存在がなければ、途中で心が折れていたかもしれません。同僚と協力し、組織として生徒を支えていくという、教職の本質をこの合宿で学ぶことができたと思います。

これから教員を目指す皆さんに伝えたいことは、「軸を持つこと」と「早めに行動し、継続すること」の重要性です。専門分野の知識はもちろん大切ですが、それをどのように生徒に伝え、社会に送り出すかという教育者としての視点を忘れないでください。また、面接対策では自分自身の経験を書き出し、言語化することに時間を割いてください。最後に、大学生活を送る中で興味を持ったことには、失敗を恐れず積極的に取り組んでください。成功も失敗も、すべてが将来豊かな「語り」の材料になると思います。皆さんと共に兵庫の教育を支える仲間として働ける日を、心から楽しみにしています。最後まで自分を信じて、走り抜けてください。